

日本百將傳一夕話

四

2327



日本百將傳一夕話卷之四

東都



松亭金水謹撰

目錄

○

平なる

惟なる

茂なる

○

源なる

頼なる

光なる

○

源なる

頼なる

信なる

○

源なる

頼なる

義なる

○

源なる

義なる

家なる

○ 清原武則

以上六將目錄終

永田 姓



常陸大掾国香
良望

シゲモリ
繁盛
從五位上

鎮守府將軍

鎮守府將軍

シテモチ出羽秋田城人
繁茂

幼子 年 小失 四年
 兄 之 后 猶 懷 不
 化 之 子 工 於 批
 老 翁 小 童 下 未 有
 刀 抽 攝 亦 之 嬰 兒
 不 授 之 後 代 之 者
 帝 氏

平ひら惟ただ茂も

或作
于維
人皇六十六代村上帝應和三年卒
今嘉永六丑述八百九十二年成

平タヒラフ惟コレ茂モチ者ハ号ガウス餘ヨ五ゴ將シヤウ軍グント曾カツテ在アリ奥アウ州シウニ

為^{タメニ}藤^{フヂ}原^{ハラ}諸^{モロ}任^{タツガ}被^レ攻^テ殆^{セメ}死^{ホトンド}幸^{シチテス}得^{サイハニ}免^{エニテ}而^{マヌカル}

遂殺諸任其威振東北世傳惟茂

入^{イリ}信^{シン}州^{シウ}戸^ト隠^{カクシ}山^{サンニ}斬^{キルト}妖^{エウ}鬼^{キヲ}云^{イフ}

これりち さきりり とも さきりり と と 伯父貞盛の弟 さきりり 貞盛のふく と 伯父貞盛養ひて と みる と 弟十五 と 不学 と と
りて よひ 余五と称 あやう 性 いかに 昔 てき 嫡 さきりり と と 次 つぎ と と 二郎 に 次 つぎ 才 お 不 い 遜 ちやう 十二 と 余 よ 一 いち 身 ちやう と と 人

百集傳一外記卷之四

玉堂藏板

百將傳二 古卷之四



池の中
惟茂
命と
金と

界を黒煙天と衝く。こふ於て館の男女泣叫ぶ声耳と貫き逃呻吟て煙を喰
 び猛火の下に燔死するもの約八十餘人あり。澤腹徳任の隊分と倣。彼の方
 と固こゝ火を避へ出る者ハ男女といへば斬殺。一家を焉小獨し。うゑに火
 も残るまじ。その焼迹と見巡る。唯とあるに様里なる死骸の衆とありけ
 る。ふで、おの中に余五もある。嗟心也。昔一と勇と歎び凱方揚て引退さ。吾妻の兄
 あり。従五位下好則といふる。能登也。橋惟通がふふて文武小賢くみえと
 守やと仁毫深く。いとうた武士ありけ。世人大君とぞ移る。於て諸任のよの
 大君が門におゐる。此とと信。乃て大君に立出ま。戦ひの勝利と祝。渠と
 其雄と。家小筑る。討と甚難。とする。処然とを輒く滅。あふ実小微妙働
 あり。但余五が首と撃て取付小結つけあふ。經首と獲る。大おのたふけ士率へたふ。う
 何ふと。ふ澤股谷へて首と。ねら獲さ。とも。館小在る。の。と。の。約。猶。も。通

得ざる。余五の道まんやういふ。いと誇る。不答ふれば。大君頭を傾けて。余五を
の老が阿容と。煙の裏ふや斃ふ。必ちぬく。あへぬ。いへど。諸任猶曉らず。其
腹念ふ。還さるる。争さる。とあづき。と更に懸念の神あり。大君元未思慮。海
まへ。已に。向安堵せ。足下。們。酒。飯。を。餐。應。く。の。思。へ。とも。此。処。ふ。是。と。疑。さ。せ
て。程。近。ふ。に。便。惡。し。遂。う。贈。り。来。ら。せ。ん。不。煩。と。い。て。返。り。又。と。遽。一。ま。は。澤
股。の。快。も。賢。さ。氣。さ。る。と。冷。笑。ひ。つ。と。出。て。是。う。半。里。を。う。て。還。北。の。方。へ。去。り。て
南。ふ。小。川。の。流。ま。あり。廣。さ。芝。生。の。暖。る。ふ。ま。づ。軍。勢。と。不。懌。い。せ。右。た。す。う。ち
大。君。う。う。大。様。十。餘。船。五。六。桶。を。他。佐。鳥。鯉。鮒。を。ど。な。ま。く。不。調。理。と。曉。し。み。けれ
ば。うち。飲。び。膏。う。り。出。て。腹。の。耗。う。喉。さ。乾。け。一。整。酒。を。飲。み。乳。を。食。ひ。お。具。も
この。脱。捨て。悠。々。と。する。ち。間。ふ。株。と。さ。の。僧。を。賊。せ。鞍。を。卸。し。て。株。を。胸。に。酒。を
酔。う。日。の。暖。う。殊。ふ。旁。ま。う。上。る。と。各。糧。を。枕。て。熟。睡。し。る。も。多。う。う。う。奥。う。不。惟



威名一時高く。東山の武士従ひ靡る。乃ち小僧に信濃を仕下。まじは守
 府將軍不任に。佐々木信濃が隠山の妖鬼と切てまじは彼山に棲める人。
 盗賊と成りあがり。多田満仲も戸隠山の妖鬼と切てあひ傳ふ是もまじは盗賊を望。
 まじは元頼の悪化して外とも鬼といひ下し。但滿仲と前太平記に載り獨奉
 朝通紀より云く。天徳年中、信濃國戸隠山有妖鬼。剽人民、斃死童女。國人
 爲之苦矣。朝廷議使滿仲鎮之。滿仲奉勅入戸隠山、斬其妖鬼。國人
 う。因ふ余五惟茂いそ若年の其折る。父兼忠上総公み。被さへ下すけり。
 然るにその親月身。未らんとひ遣けし。兼忠大少歎びて。そまじは懺むる。
 斯く惟茂の然るべき。從者數多を相具し。陸奥と北畠に。遠く上総へ。
 けし。兼忠も出迎へてさめぐ。不餐應々。館の内にお困めらる。一時惟茂
 從者をねて。父のあへ。四方八方の物作とあり。乃ちこれ兼忠風貌なり。

けき。側小仕。る。小扈從。小腰。と打。せて居。る。る。が。前庭。小。階。端。へ。る。惟。着。が
從。者。の。方。一。つ。る。太。郎。介。と。の。人。老。と。作。り。汝。の。渠。と。認。る。や。と。の。小扈從。の。程。と。知。り
と。着。ふ。兼。忠。領。と。然。も。あ。る。一。汝。が。幼。少。の。時。父。孤。討。へ。の。渠。と。告。ぐ。ま。い。小扈從。は。小
孩。と。て。い。う。小。由。父。の。人。の。爲。小。討。し。一。の。少。さ。る。が。幼。年。小。し。て。辨。へ。び。故。の。渠。と。い。は。れ。と。涙。と
浮。め。て。着。居。さ。う。う。が。頼。て。と。の。あ。と。退。さ。さ。う。程。と。其。日。も。着。け。ま。い。惟。着。も。と。退
さ。從。者。さ。り。あ。の。も。と。が。旅。宿。小。由。と。て。憩。こ。ろ。被。太。郎。介。の。兵。の。う。ち。二。の。老。お。て。あ。り
け。ま。い。使。人。の。數。多。あ。り。極。て。用。心。愼。ま。や。と。小扈從。同。の。二。重。小。幕。引。ま。い。下。僕。と。て。終
夜。を。新。あ。く。廻。ら。せ。さ。う。然。も。か。の。小扈從。の。何。年。と。て。狀。の。故。太。郎。介。と。討。さ。う。人。と。渠
が。酒。食。と。あ。り。宵。の。不。と。ふ。さ。う。げ。る。と。入。り。盆。と。持。て。給。仕。ま。さ。う。小。款。待。給。と。て
幕。の。外。小。隠。ま。と。の。靜。ま。さ。う。孤。候。ら。う。が。斯。有。べ。と。の。一。点。あ。り。太。郎。介。の。眠。て。お。は。さ。
下。僕。等。も。と。と。退。り。入。り。の。簀。と。焚。て。夜。廻。り。嚴。重。お。あ。お。る。小扈從。今。の。時。と。は。と。

密び出て懐ふ隠し持する刀と拔さ熟睡する太郎が喉を切られ切に紛れ失ぬ下
 僕等の去途の旁より居眠りて見えてる。夜明て視るにその密に隠れし様頼
 くと告る。惟るや大に驚き是と探るに彼小扈從が所為ある人との者あれは其
 父の密に隠れしものと告る小扈從と在下小場りて。他国へ来りて其の如きこと
 されし。大に怒りて言ひけり。兼忠は此夜より弗ふと云ふ。渠あるべし。然るに汝
 こそと云む。賜して殺さんて我开に近曾理の渠が父の太郎今討し。因て仇を
 報す。親の敵と討とい天道も許さぬ。然るにた様言をて思へば若人あつて吾を殺
 すとも。汝の故と討ぬるべし。言得ぬことあり。若く切て答へる。惟るかへす
 初め。かく外小長居の益あり。国許へより帰らんと早に飯あるせしと云ふ。后小扈
 從の者心許さず。愛らしき。いづれも老あり。若く病つて失ふ。と云ふ。間たり
 護るの多うと。單方めん。心を遂に。其の天道の佐と。法人是と感。下り

源頼光

人皇六十八代 後一條院治安元年卒
 今嘉永六丑述八百三十三年成

源頼光者満仲長子也。勇名籍甚。

為鎮守府將軍伊吹之山凶賊伏

誅市原野校童授首

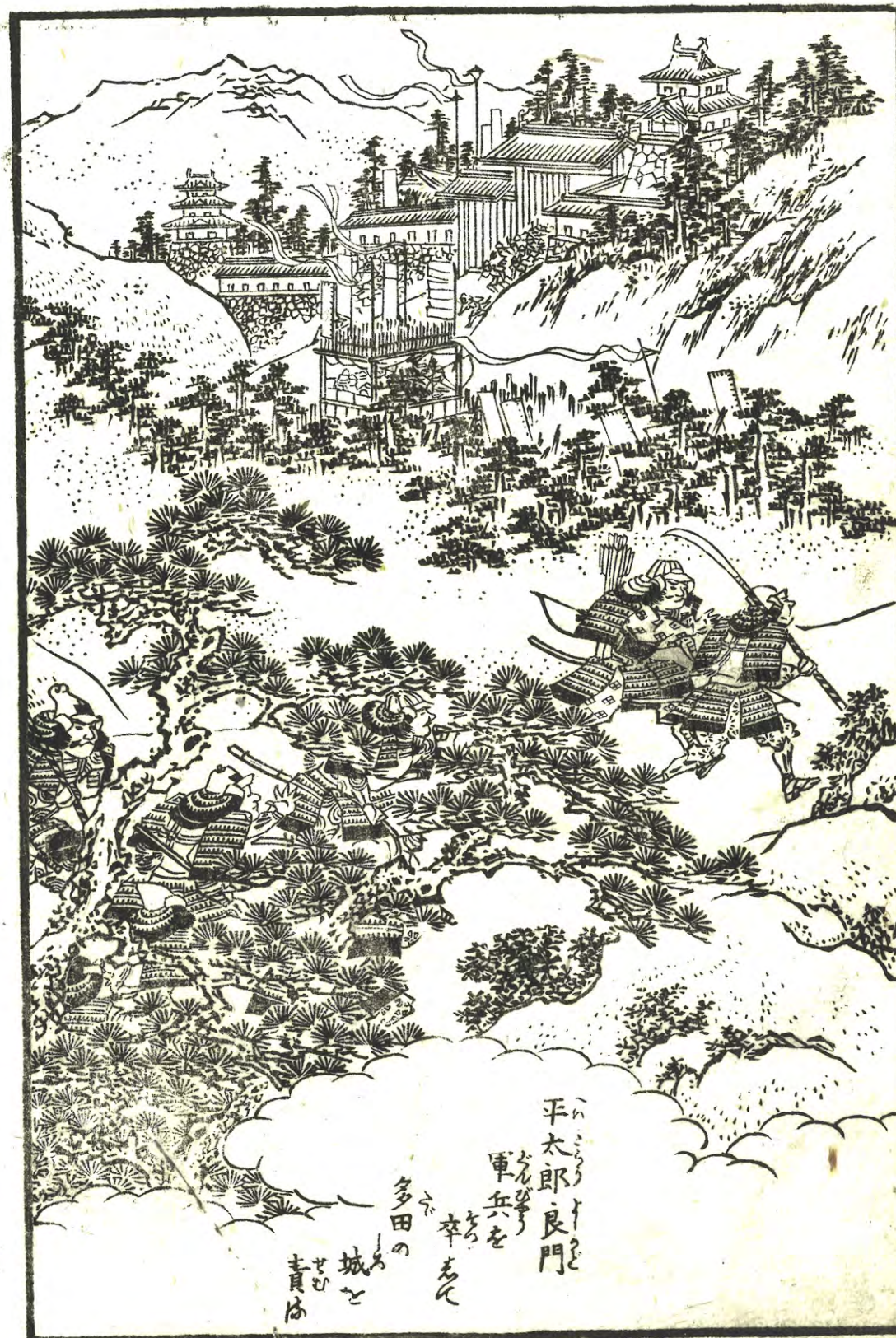
頼光初長の子。其の事蹟は後人にも勝る者なり。一、世叙任の次第
 説あり。故にふ載せし。其の圓融華山一條三條後一條の五朝。其の
 伊豫美濃守と歷て内務頭と兼左馬権頭。民部大輔。小遷り。其の
 小玉を鎮守府軍小拜を。治安元年七月廿四日卒。六十八歳

系圖六孫王より	頼光	頼家	頼基	頼昭	女	頼綱	明國	中政	国直	頼政
攝津守	筑後守	出羽守	永寿阿蘭梨	多田左門尉	下野守	兵庫頭	土佐守	兵庫頭		兵庫頭

君王堂前

前文^{まへぶん}はとて関^{かん}く月八月十日^{しつがふにち}初^{はつめ}を立^たて任^{じん}ふ下向^{げかう}

果て六月めふあうてまゝとの
 永延三年九月下旬のとまづ
 永延三年三月廿三日將軍太郎良門四百五十人の野伏せり



平太郎良門
軍兵を
卒
多田の
城を
責め

る。前、後、ふ、ま、て、首、の、支、付、も、寸、分、切、ら、ず、此、年、春、の、比、發、が、か、つ、り、が、決、大、の、武、
功、の、周、一、且、靜、鑑、ふ、及、ぶ、と、い、く、ど、の、首、領、の、溺、死、と、居、て、近、に、侍、吹、の、山、中、に、屯、
在、所、と、幼、累、に、ら、ふ、故、に、遠、回、も、頼、光、初、に、と、擇、ま、る、て、討、の、命、下、す、
う、へ、子、息、頼、忠、と、頼、重、に、廻、ら、し、網、の、時、と、相、副、ら、し、ま、す、才、の、季、武、貞、道、以下、の、軍、
兵、と、引、率、一、兩、將、合、と、二、方、將、統、侍、吹、の、命、後、と、う、ち、團、同、八、月、七、日、の、早、旦、す、
目、に、合、致、止、め、り、派、を、三、網、考、計、と、り、て、頼、忠、の、同、意、と、攀、難、を、城、中、に、入、り、
ま、つ、賊、等、に、防、ぐ、へ、さ、計、し、る、西、の、祖、の、丘、岸、に、う、數、千、丈、の、谷、底、へ、人、類、と、突、て、落、落、
頼、忠、落、城、に、及、び、る、元、來、の、侍、吹、の、首、領、と、調、頭、等、ふ、と、い、ひ、り、て、頼、忠、の、渠、等、に、滅、
び、さ、す、と、い、う、み、ん、と、の、処、へ、再、び、出、ら、ん、と、言、人、毎、ふ、怪、し、思、ひ、ぬ、老、の、な、り、故、に、頼、忠、の、首、領、
と、思、ひ、て、賊、徒、と、多、く、捕、へ、ど、調、頭、あ、る、人、と、秘、言、し、る、折、々、破、死、お、十、七、八、十、四、
五、計、の、妓、女、二、十、人、を、う、り、居、り、と、搜、出、て、故、を、問、ふ、是、等、の、賊、の、妻、子、ふ、あ、る、と、い、ふ、近、に

う、り、奪、へ、と、て、ら、ふ、未、だ、也、ね、株、脊、の、中、に、裂、き、思、を、深、に、頼、忠、離、れ、思、ひ、の、う、り、の、伏、賊、
の、妻、と、名、を、つ、け、ら、し、て、仇、あ、る、愛、の、撲、陳、あ、る、怨、恨、哀、し、さ、比、を、死、じ、も、で、ま、月、日、
と、存、命、つ、つ、う、云、ら、し、ま、つ、偽、の、世、に、り、て、い、ひ、難、に、酒、願、と、い、虚、言、と、頼、忠、生、捕、百、六、十、
人、と、先、に、幸、し、て、凱、陳、あり、ま、罪、科、お、行、ひ、ら、る、か、の、女、子、と、い、其、中、所、へ、名、を、う、り、返、さ、
ら、し、と、い、死、る、人、の、蘇、生、て、再、び、ま、る、思、ひ、と、り、疾、に、涙、を、哽、ひ、や、実、に、源、家、の、大、將、の、命、の、
親、と、を、歎、び、る、か、と、後、長、保、元、年、頼、光、東、宮、大、進、お、り、あ、る、
頼、奥、守、義、守、府、將、軍、と、兼、あ、る、一、仕、を、う、り、帰、洛、あり、松、津、守、お、り、あ、る、ひ、て、多、回、
の、館、に、在、ら、る、ま、盛、者、必、滅、の、標、土、の、あ、る、ひ、老、少、不、定、の、人、命、と、い、諒、も、思、ひ、知、り、な、
ら、う、今、年、治、安、元、七、月、廿、四、日、享、年、六、十、八、ふ、ん、の、朝、臣、卒、一、あ、る、その、為人、尋、た、な、ら、う、
勇、敢、を、未、だ、お、り、智、謀、を、大、に、お、り、ま、す、こ、よ、う、た、朝廷、の、守、り、一、小、重、病、忽、ち、
心、神、と、犯、し、眞、土、黄、泉、へ、送、ら、る、日、未、の、命、を、換、ら、ん、と、誓、さ、う、一、忠、臣、等、士、も、死、出、の、

山崎の先を逐ひ後を復して行へる。哀情の涙のこ。冷方にかうせし。
 かくて多田満慶が。廟所を並べて是を葬す。孝義代君を行ひる。四天王の人。
 猶君と追慕のあり。三月の間廟参りて企て。日毎におもひて。来詣りて。恩遇
 の報い。満参の日及び酒田公時の細と。三箇の人。ふらち。對ひ。君。在。世
 の。その。程。の。他。の。く。懇。不。交。ら。ひ。ひ。て。その。好。玄。捨。が。く。い。な。る。る。の。う。下。の。や
 此。外。より。暇。ま。と。ま。若。今。生。の。契。聖。絶。む。ば。も。こ。こ。七。又。参。み。い。め。と。て。早。め。解。と
 ぬ。け。バ。液。を。始。め。と。奉。て。送。り。酒。田。刀。松。何。と。う。あ。る。君。万。歳。の。後。と。い。ふ。こ。も。ね。ま。の
 公。達。の。坐。ま。と。を。捨。て。何。地。へ。往。け。り。と。や。喃。と。呼。う。せ。と。公。時。の。回。答。も。せ。ば。それ。以
 註。と。人。を。走。ら。せ。自。身。も。逐。り。け。り。と。て。宛。然。風。の。発。する。や。け。方。の。ま。ま。と。い。ふ。り
 と。ん

多田満仲の五男
 頼信 河内守

頼義 小名千寿丸
 頼清 井上肥後守
 頼末 掃部少三郎
 頼仕 河内冠者
 義政 常盤五郎
 國井祖

源 頼 信

人皇七十四代 後冷泉院 永承三年卒
 今嘉永六丑迄八百六年成

源頼信者 清和源氏之嫡流也 擊平
 忠常于下總國時素知浅深先驅涉海
 諸卒從焉忠常大驚懼乃降

頼信ハ満仲の末子ナリ。頼光の舍弟ナリ。と。い。ふ。も。年。の。い。く。ま。へ。さ。り。て。頼
 光。の。や。り。ひ。の。育。と。あ。る。元。来。頼。信。智。勇。あ。る。あ。ひ。を。に。頼。光。あ。る。あ。の
 孫。不。義。家。あり。あ。く。武。門。の。棟。梁。と。作。さ。る。人。良。ね。あ。ま。い。頼。信。庶。流。と
 い。へ。ど。竟。み。清。和。の。嫡。流。と。い。ふ。り。実。ハ。頼。光。の。子。頼。國。と。り。て。嫡。流。と。い。ふ。べ。し

源賴信の始

賴信ハ圓融院の天延二年ふけま 後一條の永延三年。十二歳より元服あり即
に宣と賜つるその文ふいそく

無位源朝臣賴信

右可正六位下

サマシセウトル井タイシチウシナウジジメイカ。アタタキタリノキリヤウラカフソノセニウラ
左馬允累代忠臣曩日名家非唯好當時之器量且感父祖之先功
及此良辰汝加首服授爵命宜用異寵榮可依前件王者施行

天延二年九月十八日

と見えたり。かくて賴信冷泉院の判官代よりされ伊賀伊勢美濃近江美濃
越前紀伊淡路木のおきより。此頃群盜浪人起て良民と害するや。治進のあま
けま。則討つて向らふとて。前武藏守満政以下。その大將四人の中。賴信も擇れ

のひ。加藤豐後三郎忠正以下。其勢初令二千勝。誘若校。賊あふ進。奪る。前後二
十日可めり。群盜と謀。幾あり。そのあまを平定して。凱陣の時。あ及び坂中山。まは
あひ。そのまより。賀茂貴船の西社。お下向道。おか。あひ。市原野。お幕。うち。は。は。
胸と。あ。め。ひ。に。供。お。候。ひ。る。大宅。お。弁。光。國。ハ。被。鬼。同。凡。が。素。性。と。候。て。さ。と。
右。家。ら。世。是。より。乾。お。岩。窟。あり。其中。お。方。丈。の。石。あり。と。り。と。て。お。坐。し。た。ふ。ふ。の。
大。天。物。お。天。物。と。稱。ら。ひ。ひ。佛。法。被。滅。の。縁。と。り。早。く。謀。刺。あ。う。ま。ん。は。忌。と。ぬ。こ。の。
あ。う。ん。と。言。ひ。賴。信。と。ま。と。と。の。あ。ひ。さ。へ。被。処。へ。せ。て。死。ん。と。宗。院。の。人。と。從。へ。て。か。の。岩。窟。
お。り。の。ま。へ。鬼。同。の。ま。へ。向。お。お。て。石。上。お。い。へ。ま。お。捕。と。挫。ぐ。と。構。て。り。大。宅。坂。戸。お。
作。め。て。り。此。あ。て。と。ま。と。組。む。鬼。同。ハ。例。の。金。割。力。お。上。と。下。と。操。合。て。兩。個。脱。お。光。々。
と。あ。ま。ま。だ。加。藤。首。藤。の。面。と。り。重。る。と。り。湯。の。鬼。同。と。難。く。搦。め。捕。お。り。の。條。下。お。
り。此。後。修理。の。命。賜。と。要。す。長。保。五。年。四。月。九。日。男。お。誕生。あり。と。さ。へ。お。壽。九。と。号。

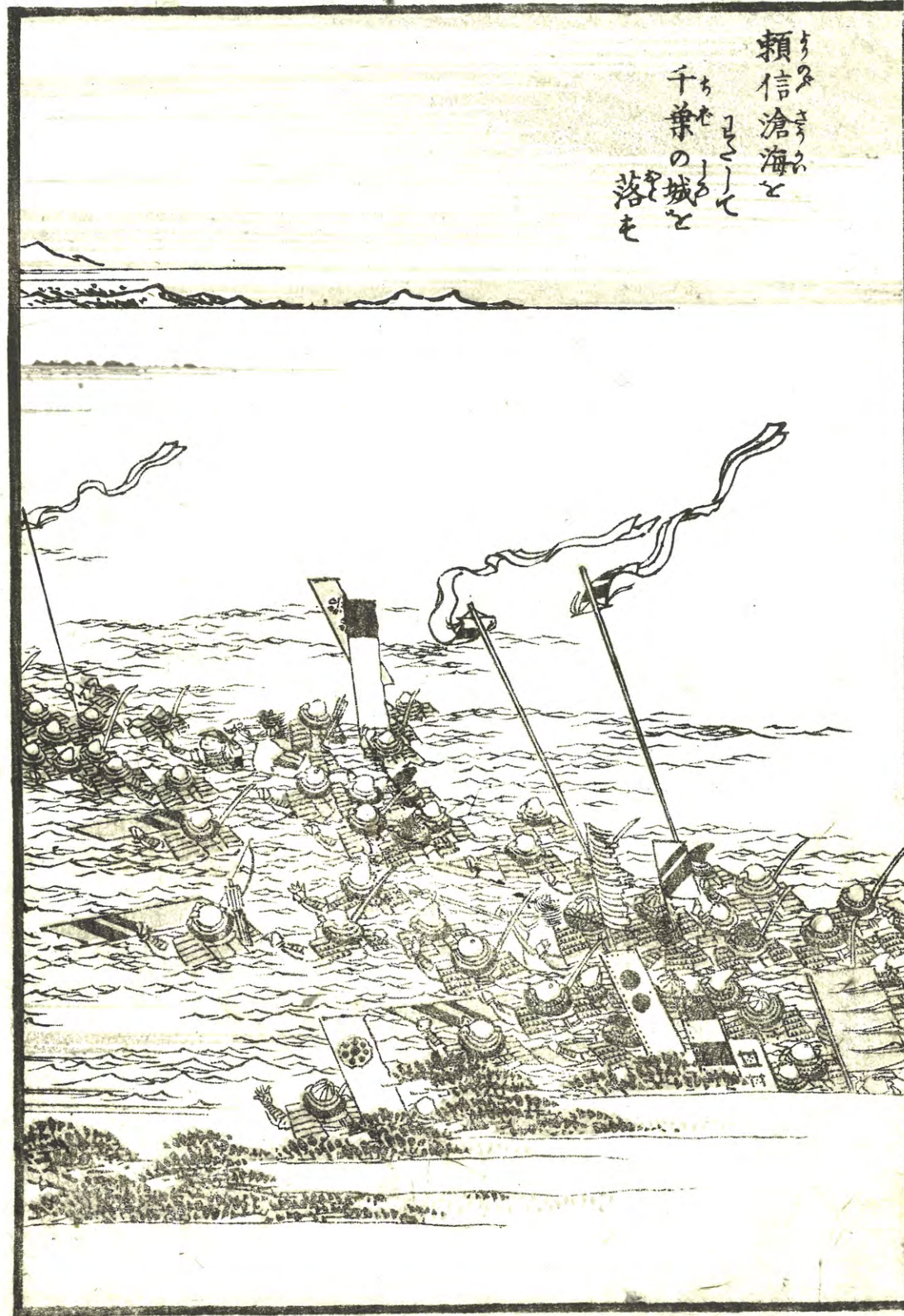


秋津の
六郎
鹿と
射て
兩國の
動乱を
醸す

於て心度父子前後の故で防ぎがたう。御方大半討ちまゐる。遠く退きまゐる。かくて心度
 の軍馬を打ち退き、進み、御討ちを下さる。とて檢非違使に密に佐平連
 方、右衛門佐中原成道と兩大將とて忠常、徳成と令ぜし。右大臣實資、勅と奉り
 つて東海、東山の兩道へ官符とを下さる。かくて兩方の准佐と整へ七月廿五日、密所と
 きて關の東へ向ひ、打ち退き、五子、防可ありじ。治次、人勢、あけまゐる。武蔵の公府へ
 到着あり。二万二千餘騎あり。忠常、いそいで、さへ防ぎ、と御計と做せし。と
 その勢、二万餘騎と相副へ。金矛、陸奥、権、忠頼と隅田河へ遣り。是より合戦
 戦面のうち、動き、官軍、敗北。其後、兩大將、千葉へ押寄せ、大々、搦手、より、あけまゐる。
 忠常、敗北、不要害と構へ、矢、種、兵、糧、澤、ひ、ひ、毎度、官軍、利と失へ、御、合戦、と挑
 ん、食、攻、あり。と直方、隅田河、城、と構へ、武蔵、相、換、の糧、乃、と、武、成、道、の、安、房
 守、光、業、と、一、所、あり。上、後、修、北、不要害と構へ、安房、上、後、の、路、と、塞、ぎ、心、度、の、荒、木、小、出

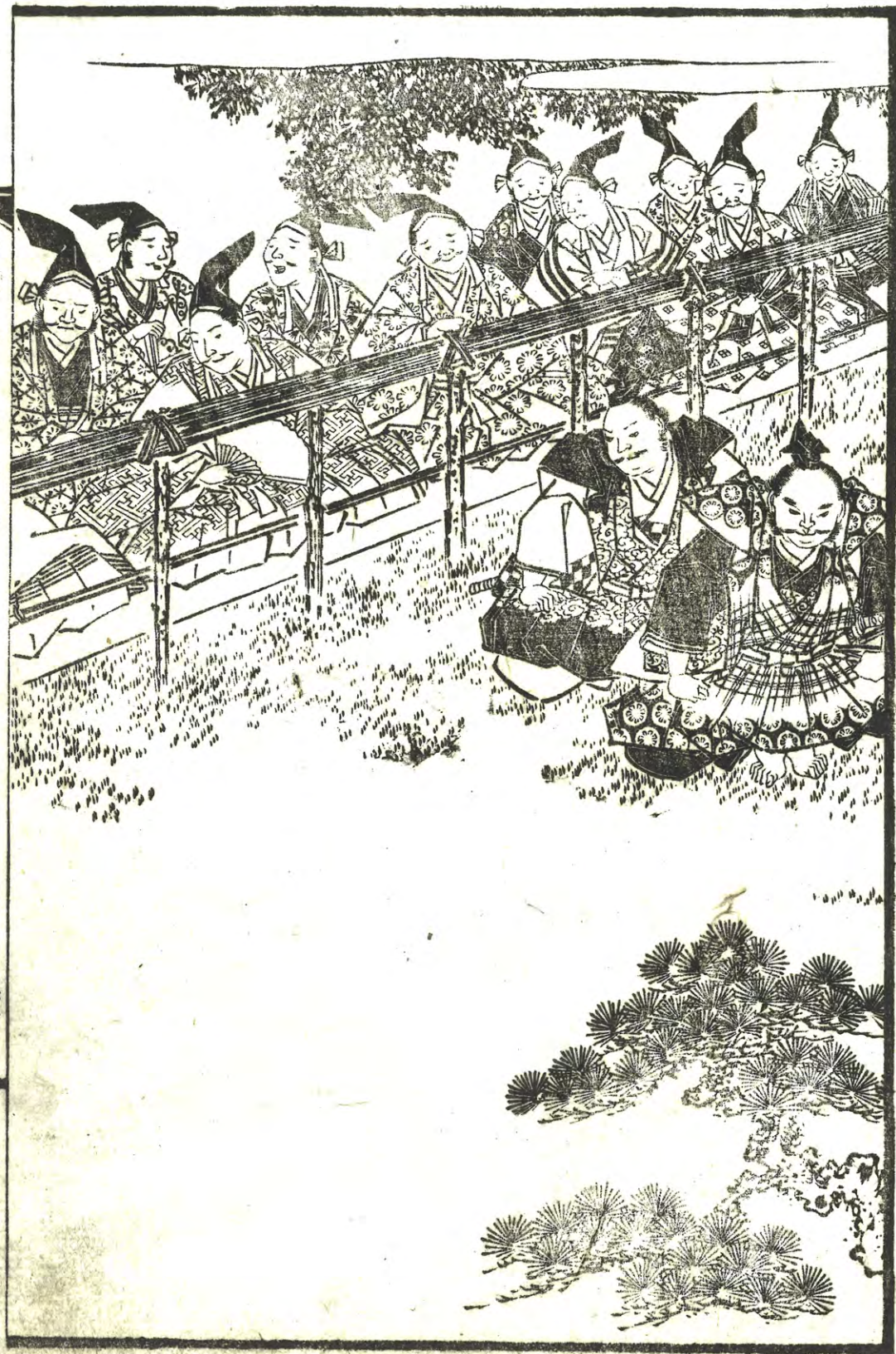
張、常、陸、奥、及、の、運、送、と、止、む。かく、長、元、二、年、と、あり。その、年、の、改、ま、と、城、中、弱、く、ま、る、も
 あり、空、く、送、り、て、十、月、十、二、日、三、方、より、同、時、あり、城、と、屠、り、と、議、せ、ま、る。と、成、道、血、氣
 あり、早、う、の、條、合、給、せ、即、ち、遠、く、ち、做、さ、ま、後、陣、光、業、と、引、退、く。と、方、の、大、將、の
 如、く、千、葉、の、城、へ、押、寄せ、ま、と、成、道、光、業、と、不、見、と、ま、り、後、ま、り、故、の、十、分、の
 勇、あり、味、方、の、は、る、猛、勢、あり、是、の、ま、り、ち、負、て、散、ま、り、て、退、け、毎、度、成、道、國、と
 外、の、味、方、の、勝、利、と、ま、り、大、將、の、害、あり、と、則、東、所、へ、召、返、さ、ま、り、光、業、と、一、個
 二十、餘、日、伊、凡、あり、一、日、安、房、上、後、の、兵、忠、常、と、從、ひ、押、寄せ、ま、り、あ、げ、ま、り、て、い、と、お
 勝、え、ま、り、取、り、の、も、う、あり、船、あり、と、相、換、さ、ま、り、平、政、補、安、房、と、不、補、せ、れ、ま、り、下、向、す
 ま、と、忠、常、と、從、ひ、靡、と、國、府、へ、ある、勢、あり、心、度、と、荒、木、小、出、に、敗、軍、あり、及
 び、い、は、是、の、中、に、常、陸、へ、退、く。檢、非、違、使、東、方、の、隅、田、河、に、在、り、と、病、み、罹、り、
 征、討、し、ま、り、と、由、奏、聞、あり、ま、り、と、法、卿、會、談、あり、て、右、返、さ、ま、り、再、び、大、將、と、擇、み、小、故

頼信 滄海と
 千乗の城と
 落も



其の如くともうのぶあえい ちんぢ くれち まん くらわや ぶんや
 抄見の才頼信朝臣の玄ぬる寛治四年河内と楊子。番長峰不在城あり。が治安三
 年八月の隈守府の軍不補任せし。任充て後甲斐守不補任せし。任充て
 然るに頼男頼重と忠常追討の論旨と賜て。急ぎ彼処に罷下す。父頼朝は是
 て傳え父子緒共下然も下向。不日不謀成をさす。仰合らまけし。頼男畏て領
 兼。倉庫等引俱一申斐も下す。論旨と父不違ふ。頼信恭々お裁さ
 頼てその准候とす。長元三年十月十八日甲辰と立て下然へ。頼朝の忠告をありと
 安才忠頼と頼子中村太郎忠將とねとて。四万五千勝勢と授け。防ぐべしと命する。
 兩物件の軍兵と率て頼信朝臣が五万餘勝と。武島松ふみて出會けし。平家
 河内戦陣とて。明も六兩勢戦と交え勝負種とありけし。ど竟も千餘方勝れ
 う。忠常は安房上総の兵一万二千勝勢と。敵中の勢一万勝と相副に援兵と遣
 けし。六兩勢戦とて。安房上総の兵一万二千勝勢と。敵中の勢一万勝と相副に援兵と遣
 けし。六兩勢戦とて。安房上総の兵一万二千勝勢と。敵中の勢一万勝と相副に援兵と遣

さき先隊分と改め。右左するやどふ一致せむ。あみけり岩槻中野両所ノ戦ひも利ありて。陸奥推介忠頼ハ脱み討死と做しふる。太郎忠将ハ岩淵に在る陣と圍めてありける。忠常かゝうと受て。四万餘騎の軍兵と率。岩淵にお出張。一夜の間お破れありける。忠常かゝうと受て。四万餘騎の軍兵と率。岩淵にお出張。一夜の間お破れありける。忠常かゝうと受て。四万餘騎の軍兵と率。岩淵にお出張。一夜の間お破れありける。



人ふ中よりとてそを捕と墮る者定くふさ留めて頼義に馳進せし馬と取
戻し。幸來る頃雨止とて月之朧みえたりなり。頼義はかくいひ放し。在馬を引
し。彼不敵やと想ひぬ。かる折々進み下僕十人たり。頼義途み行
あひまへ。別後馬と渠們不幸せ彼へ飯までも夜中明後。そのまふ外なる
かくて翌朝例の如く。頼義父不對面あり。既へて見えぬ。實に遅れぬ
まは。物めく賜ひて。宿新へ飯をひが。昨夜のてん父よりか。世ものいひぬ。あて
あ。天晴大ねの志はかくとあれと。頼義人ぞ頼義せぬ。いじと。佐との頼義父の
安儀一家が乳めふよう。陸奥ふ補せし。かのか。下向あり。い永義六年六月七
日あり。然るに頼義其威ふ。必しも名と。又頼時と更めて。國府へ参り降し。より。一任
就ふ。参り。より。も。上。貞任が。好色より。事紀。元。九年の。關。戦。と。て。前。九。年。の。合。戦
と。の。事。疎。ハ。余。著。し。る。頼。義。勲。功。圖。會。不。獲。也。其。餘。も。る。は。終。双。紙。中。也。

とて。兄。え。て。その。の。精。粗。ハ。あ。と。と。ま。な。侍。と。拔。華。る。物。多。く。し。て。人。に。な。る。ま。は。
今。更。お。贅。言。あ。ひ。と。も。益。あ。る。ん。但。一。天。喜。五。年。六。月。七。日。軍。勢。炎。暑。者。不。困。ん。
は。た。た。時。あ。わ。び。丹。精。と。懲。し。皇。城。の。雄。心。と。休。一。拜。之。貳。師。將。軍。の。故。り。ま。
引。て。祈。ら。ま。し。り。一。威。威。度。あ。り。燃。る。ぐ。め。さ。巖。角。より。忽。地。飛。泉。涌。出。て。後。軍。の。過。と。
佐。け。い。和。漢。古。今。ふ。その。例。多。う。と。る。功。績。あ。り。今。も。神。社。の。祭。礼。ふ。こ。と。と。換。え。
美。徳。と。あ。ひ。是。併。あ。る。勇。猛。の。れ。為。を。所。あ。る。と。て。實。に。至。誠。の。勢。り。を。せ。る。あ。
双。の。良。將。と。謂。つ。べ。然。ハ。あ。ま。と。も。古。語。い。ふ。人。多。く。て。天。不。勝。天。定。ま。り。て。人。不。獲。と。我。
時。一。家。の。乱。逆。も。要。時。榮。る。時。節。あ。て。一。舉。不。退。治。ま。る。と。結。ぶ。は。武。さ。た。は。さ。り。の。
良。將。と。七。袴。ふ。ち。傲。さ。と。て。脱。ふ。生。害。あ。る。ん。と。せ。り。智。謀。深。う。良。將。の。殊。め。ふ。
固。て。護。身。教。も。こ。と。と。止。ま。り。身。と。忠。臣。雪。夜。の。艱。苦。修。を。後。不。改。め。不。改。悔。せ。し。
は。の。こ。然。る。後。敵。の。追。も。逼。ら。ば。父。子。再。會。あ。り。て。國。府。へ。飯。を。再。び。其。威。と。揮。ふ。

頼義の圖賛キウ子シふいそく
 九年探賊窟穴サグリダク
 百里喋朱殷血ヒヤクリナガス
 威烈奮シユイシ於轟雷インシナラ
 剪滅井レツフルヒ
 六郡巨魁カウライヨリ
 六郡巨魁ヘンメツス

人皇七十三代堀河院長治二年卒
今嘉永六丑追七百五十一年成

源義家者賴義之子也。有雄畧善騎。

射從賴義于奥州誅貞任宗任其後

又討武衡家衡平之源家之嫡流

八幡太郎是也

此ぞ宗任と誅死とある後の誤字也。但し宗任も團賊巨魁の一人。
あり。故に其罪誅ふべきを以ての故也。未詳宗任の勇敢と云ふこと。
ふ徳を罪と許し。傍近く召仕はし。その後書ふことなり。

義隆芳
毛利
圭興六郎

...

七
山
經

卷之七

回無邪



義家 暗明 忠明 僧 観修 関白殿 術と あり

利運あり。美善
 食脱ふ之けり
 新しき事
 武貞その甥
 新方次郎
 治と云て
 管圍ふて
 責任が叔父
 利運あり。美善
 食脱ふ之けり
 新しき事
 武貞その甥
 新方次郎
 治と云て
 管圍ふて
 責任が叔父

と。其の元
ち主旌旗天
を率ひ其虚は
武則主人進
賊仇の前で討
つふ責任大軍
さへば武則長
りん。ごも智恵
こへ来ぬ是れ
その安さと致す
お及びて或ひ



漢父が密網を羅する。果は要害を控へて支えらる。輒く退治をかんて深淵を觀
 望して、隙隙をみる。運じて自滅を招く。形をいへば、加納雲をうへる。その
 氣味よくて、樓のやう。とて敗るの家あり。在下の勢で引俱と。一戦の隙、彼らに
 軍あり。その分隊あり。と其是、非を明かす。掌と示ぐ。かく述る。それ
 ば、今もその如くあり。と語る。軍勢一客、小勇を歎び、其人の異を理を説く。を
 勇、十倍あり。ふける。果せる。其日の戦ひ、責任さう。の大軍で敗る。是年、と
 して退き。また、威勢日、減て、竟に一家滅亡。及び武則天、其後の勝敗を、究む
 べし。とて、道理を以て、是と辨。結軍の鋭氣を、信をむ。とて、大に味方
 の利を得る。と、古今、先蹤、少る。と、いふ。か、ま、ば、其人、武則天、普通の、おめ、あ、と、いふ。
 功、小、依て、後、守、府、將、軍、あり。世、其、後、將軍、と、稱、する、由、宜、ある、と、いふ。

日本百將傳一々話卷之四 畢



大日本帝